# 小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する研究

## －作文シラバスカードを用いた学習活動をとおして－

西根町立東大更小学校　教諭　**千　葉　真　智**

## Ⅰ　研究目的

小学校国語科においては、目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書く力の育成が求められている。そのためには、目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書くことや事象と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることが必要とされている。

しかし、本校の児童の実態をみると、文の主述が明確でなかったり、事象ばかりの文章になりがちで自分の考えを表現していなかったり、文章の中心になることを考えずに思い付いたまま書いてしまったりする傾向がある。これは、児童が書こうとする事柄を絞ってまとめたり、全体を考えて文章を組み立てたりする力が十分に育っていないためであると考えられる。それは、今まで、文章の構成の指導が不十分であったことや、自分の立場から書くことが多く、読み手の立場に立って書いたり推敲したりする経験をさせることが少なかったことが原因であると思われる。

このような状況を改善するためには、学習計画を理解させ、児童自身が見通しをもって、段落の働きを押さえて文章を書いたり、見直しをしながら学習したことを確認したりできる作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れることにより、児童一人一人に目的や意図に応じた文章を書く力を育てることが必要である。

そこで、この研究は、小学校国語科において、作文シラバスカードを用いた学習活動をとおして、目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導の在り方を明らかにし、小学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

## Ⅱ　研究仮説

意見文を書く学習活動において、次のような作文シラバスカードを用いれば、目的や意図に応じた文章を書く力が育つであろう。

・学習の見通しが分かる作文シラバスカード
・筋道を立てて段落を構成できる作文シラバスカード
・確かめながら学習を進めることができる作文シラバスカード

## Ⅲ　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する基本構想の立案

(2)　手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察
(3)　作文シラバスカードを用いた学習活動についての手だての試案の作成
(4)　授業実践
(5)　実践結果の分析と考察
(6)　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する研究のまとめ

２　研究の方法
(1)　文献法　　(2)　質問紙法　　(3)　テスト法　　(4)　授業実践

３　授業実践の対象
西根町立東大更小学校　第６学年（男子３名　女子９名　計 12 名）

# Ⅳ　研究結果の分析と考察

１　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する基本構想
(1)　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導についての基本的な考え方
ア　目的や意図に応じた文章を書く力とは

目的や意図に応じた文章とは、相手意識や目的意識、場面や状況に応じて表現の仕方に関する方法を考えたり、工夫したりしながら効果的に書かれた文章であると考える。効果的とは、自分の考えが明確で、論理的に展開され相手によく伝わることを意味している。そこで、本研究で目指す目的や意図に応じた文章を書く力とは、相手や目的などを意識しながら自分の考えを読み手に明確に伝えるように、裏付けとなる事柄を明らかにし文章を論理的に構成して書くことができる力ととらえる。

**【表１】目的や意図に応じた文章を書く力の構成要素**

| 構成要素 | 構　成　要　素　の　意　味 |
|---|---|
| 見付ける力 | 伝えたい自分の考えを確かなものにすることができる力 |
| まとめる力 | 自分の考えを論理的に表すことができる力 |
| 見 直 す 力 | 読み手に分かりやすい文章表現に練り上げることができる力 |

この目的や意図に応じた文章を書く力は、「見付ける力」「まとめる力」「見直す力」の三つの要素で構成されると考える。これらの要素についてまとめたものが【表１】である。見付ける力とは、裏付けとなる事柄やキーワードを決め、伝えたい自分の考えを確かなものにすることができる能力である。まとめる力とは、読み手を意識しながら自分の考えを裏付けとなる事柄を基に論理的に文章にまとめることができる能力である。見直す力とは、自分の書いた文章を読み手の立場に立って推敲することにより分かりやすい文章表現に練り上げることができる能力である。

これらのことから、本研究の目指す児童の姿を、「伝えたい自分の考えを確かにもち、論理的に構成した文章を、読み手に分かりやすい表現に練り上げることができる」とする。

イ　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てることの意義

目的や意図に応じた文章を書く力を育てることは、人と人との関係の中で必要とされる「伝え合う力」を高め、情報の氾濫する現代社会で「生きる力」を育成するという点で意義のあることである。

(2)　作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れることの意義
ア　作文シラバスカードとは

「シラバス」は学習計画書として用いられている場合が多い。その他には「学びのナビゲーター」という学習者を主体的な学びに導く役割もあり、学習意欲を高める働きもあると考える。

そこで、本研究では上記の二つの役割を併せもった作文シラバスカードを作成し、意見文を書く活動に用いる。作文シラバスカードは10頁で構成され、台紙に単位時間終了後、それぞれの頁のカードを貼り付け一冊にまとめる。このカードは意見文を書く手順に沿った活動に対応した構成になっている。一冊にまとめることにより、学習の足跡を残すことができると考える。

イ　作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れることの意義

目的や意図に応じた文章を書く力を育てる手だてとして、本研究では作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れる。児童が自分の考えを読み手に伝えるために論理的な文章を書くには、材料の収集、選択、構成から推敲まで、手順を追って文章を作り上げていかなければならない。これまでも作文シートやメモなどを活用した指導がなされてきているが、単発的な活用に終わってしまう傾向があったため、児童の思考が途切れてしまいがちになることがあった。

作文シラバスカードは、論理的な文章を書くための必要最小限の内容を含み、児童が自分で作り上げながら、主体的に活動するために考えたものである。これを学習活動に取り入れることは、児童が見通しをもちながら一つ一つの手順を積み重ねていくことで意見文を書くための基礎・基本を身に付け、目的や意図に応じた論理的な構成の文章を書く力の育成につながっていくという点で意義があると考える。

(3)　作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた学習指導の展開

ア　作文シラバスカードの活用

作文シラバスカードには以下の三つの働きがある。これらは活動に応じて活用することができる。

(ｱ)　学習の見通しが分かる

学習の見通しが分かる働きは単元全体をとおして活用する。単元目標や学習計画の他に、単位時間の学習目標や内容の確認、次時予告に活用できる。

(ｲ)　筋道を立てて段落を構成できる

筋道を立てて段落を構成できる働きは、論理的な構成の文章を組み立てるために活用する。単位時間ごとの活動を説明の部分と児童が書き込む部分で構成し、構想・構成表を用いる。構想・構成表は発想から構成までを手順に沿って行うので､論理的な文章を書くための基本的な考え方を理解できる。

(ｳ)　確かめながら学習を進めることができる

確かめながら学習を進めることができる働きは、学習の振り返りや推敲、自己評価で活用する。前時想起やフィードバックに用いたり、視点に沿って確かめながら推敲をしたりすることができる。また、児童が自己評価をすることで単元をとおした取組を確かめることもできる。

イ　作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた学習指導の展開

本研究では、学習段階を「見通す」「作り上げる」「確かめ合う」の三つとし、作り上げる段階で手だてを用いる。更に作り上げる段階を「発想」「記述」「推敲」の三つの場面に分ける。

発想の場面では話し合いで広げたイメージを基に自分の考えをもつ活動を行う。自分の考えを決めるための構想・構成表①、集材、選材するための構想・構成表②で構成している。これは、児童が裏付けとなる事柄やキーワードを決め、伝えたい自分の考えを確かなものにするためである。

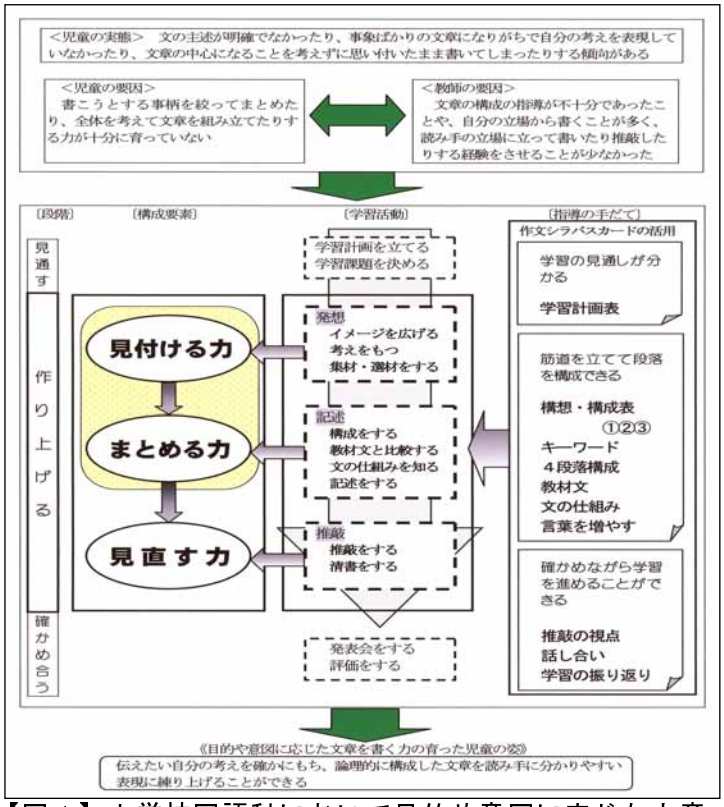
記述の場面では、４段落構成の文章に組み立て、書く活動を行う。段落の働きを理解しキーワードを用いて文章を書くための構想・構成表③や意見文を書く視点を示したもの、教材文や文の仕組みなどを学習するカードで構成している。これは、児童が論理的な文章の基本的な形式を理解し、主体的

に活動に取り組めるようにするためである。

推敲の場面では、読み手の立場に立った視点に沿って文章を読み合ったり、読み直したりする活動を行う。推敲の視点を示したもので構成している。これは、推敲する視点を示すことで児童が読み手に分かりやすい文章内容に練り上げることができるようにするためである。

(4)　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する基本構想図

これらの基本的な考え方に基づき、小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する基本構想図を【図１】のように作成した。




【図１】小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する基本構想図

２　手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

（本資料においては省略する）

３　作文シラバスカードを用いた学習活動についての手だての試案の作成

(1)　手だての試案の作成

基本構想及び実態調査の分析結果より明らかになったことを考慮して、【表２】に手だての試案作成の留意点を示す。

また、これまで述べてきたことを基に、作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れて作成した手だての試案(略案)を次頁【表３】に示す。

(2)　検証計画及び調査計画

授業実践をとおして手だての試案の妥当性をみるために、【表４】の検証計画、【表５】の構成要素の判断の観点を作成した。

（本資料においては、調査計画は省略する）

【表２】作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた手だての試案作成の留意点

| 手だての試案作成の留意点 | |
|---|---|
| ・児童に作り上げる段階の活動を意欲的に取り組ませる工夫 | ・全体で指導することと、個別に指導することを整理し作文シラバスカードの学習することに盛り込む |
| ・段落の働きや文章の組み立てに意識をもたせる工夫 | ・論理的な構成の文章のよさを理解させ、記述の場面から意識付けを行う |

【表４】検証計画

| | 検証内容 | 検証方法 | 処理・解釈の方法 |
|---|---|---|---|
| 目的や意図に応じた文章を書く力の育成状況 | ①見付ける力<br>②まとめる力<br>③見直す力 | ・実践の事前事後に課題作文の記述により検証する<br>・児童の作文シラバスカードへの記述により検証する | ・①～③の構成要素について【表４】の判断の観点を用いて分析・考察をする |

【表５】構成要素の判断の観点

| 構成要素 | 判断項目 | 判断の観点 |
|---|---|---|
| 見付ける力 | 自分の考えを明確にする | ・自分の伝えたい考えを決めているか<br>・自分の考えを裏付ける事柄を選んでいるか<br>・キーワードを決めているか |
| まとめる力 | 自分の考えが効果的に伝わるように、裏付けとなる事柄を適切に配置する | ・キーワードを用いているか<br>・「なか」「まとめ」が対応しており、説得力があるか<br>・事象と意見、感想を区別しているか |
| | 論理的な文章になるように段落を構成する | ・４段落構成の文章に組み立てているか<br>・それぞれの段落の働きに対応した内容になっているか<br>・１段落１事項になっているか |
| | 種類や形態にあった文章を書く | ・適切な語や文を用いた表現になっているか<br>・主語と述語が照応しているか<br>・個々の文が長すぎないか |
| 見直す力 | 読み手に分かりやすい文章に仕上げる | ・漢字や字の間違いはないか<br>・原稿用紙の使い方は正しいか<br>・読み手を意識した文章になっているか<br>・目的にふさわしい語や語句を使っているか<br>・読み手に分かりやすい文章表現にしようと更に工夫しているか |

【表３】作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた手だての試案（略案）

| 段階 | 学習活動 | 指導の手だて | |
|---|---|---|---|
| | | 作文シラバスカードの活用 | 指導上の留意点 |
| 見通す | １学習課題の設定をする<br>２学習計画を立てる | 学習の見通しをもつ　・単元の見通し　・単位時間ごとの見通し（学習課題・学習内容）・次時の見通し<br>・テーマを知り、単元の見通しをもつ<br>・学習計画書としての作文シラバスカードを提示する<br>（目次、学習計画） | ・５年生に福祉について自分の考えを伝えるために意見文を書くことを理解させる<br>・作文シラバスカードは自分で作り上げることを理解させる |
| 作り上げる | ３自分の意見をもつ | 筋道を立てて段落を構成できる<br>・自分の考えをもつためにイメージを広げる<br>（お助け①、構想･構成表①） | 児童に応じた内容のコメントを書き入れ、活動に役立たせる<br>・班ごとに話し合いをさせる |
| | ４自分の意見を固める | ・裏付けとなる事柄を選ぶ<br>・キーワードを見付ける<br>（お助け②、構想･構成表②） | **・材料の中から考えの裏付けとなる事柄を選ぶ視点を示す** |
| | ５段落を組み立てる | ・段落の働きを考える<br>・段落の構成をし、組み立てを考える<br>（お助け③、構想･構成表③）<br>・教材文から他の構成を学ぶ<br>（お助け④、教材文）<br>・文の仕組みや語彙を増やす工夫を考える<br>（お助け⑤、増やそう、探そう） | ・論理的に構成された文章のよさを例文を基に理解させる<br>**・段落の働きを意識しながら、文章を組み立てられる形式を示す** |
| | ６意見文を書く | ・構想・構成表③を基にして文章を書く<br>（お助け⑥） | |
| | ７推敲をする | ・視点に沿って推敲をする<br>（お助け⑦） | **・読み手を意識した推敲の視点を示す**<br>**・話し合いながら推敲をさせる** |
| | ８清書をする | ・読み手に分かりやすい文章に書き直す | |
| 確かめ合う | ９発表会をする<br>10 評価をする | 確かめながら学習を進めることができる　・推敲　・学習の振り返り<br>・友達の発表を聞き、よさを認め合う<br>・友達のよいところをカードにまとめ、相互に評価し合う | ・発表を聞く視点を与える |

「注」　１太枠は、本研究で検証を行う段階を示す
２ゴシック体は、作文シラバスカードの働きを示す
３「作り上げる」段階の指導上の留意点は、実態調査から明らかになったものである
明朝体は全体への配慮、ポップ体は個人への配慮である

４　授業実践

(1)　作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要

授業実践は西根町立東大更小学校第６学年 12 名（男子３名女子９名）を対象とし、平成 15 年９月１日から 25 日まで行った。単元名「自分の考えを伝えよう」の指導計画（10 時間扱い）は本資料では省略する。６頁、７頁【資料１】は作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要である。

【資料１】作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた授業実践の概要

**段階**　**作り上げる（２・３／１０時）　発想の場面**　　学習活動にかかわる作文シラバスカード

**導入**　　**展開**

**学習の流れ**

①本時の活動
・自分の伝えたい考えをもつ活動
・自分の伝えたい考えを裏付ける事柄を選ぶ活動
②本時の目標
・意見文を書くために自分の考えを決め、裏付けとなる事柄を選ぶことができる

１学習内容の確認
①前時の学習想起をする
②本時の学習内容を確認する

２学習課題の把握
自分の考えをしっかりもとう

３福祉についてイメージをもつ
わいわい会議をしよう

**学習活動**

［１学習内容の確認］　［２学習課題の把握］　［３福祉についてイメージをもつ］

今日は、自分の伝えたい考えを決めることを勉強します

出されたことは、すぐカード（付箋紙）に書きましょう

友達の話を聞いて、思い付いたことを話してもいいです

点字が出たから、点字ブロックもいいのかな

**指導の手だてと児童の様子**

＜全体での指導＞

**確かめながら学習を進めることができる作文シラバスカード**

前時に作成した学習計画表を見ながら前時の想起を行った。また、前時の自己評価表の中から文章を書くことに意欲をもった児童の感想を紹介した。児童は学習計画表を見ながら、文章を書く目的などを確認した。

**学習の見通しの分かる作文シラバスカード**

本時は、作り上げる段階の第１時となる。写真は、学習計画表を見ながら、本時の学習内容を発表している様子である。

**考察** 学習したこと、これから学習することが同時に分かるため児童にとって活用しやすいと考える。

＜個に応じた指導＞

**筋道を立てて段落構成できる作文シラバスカード（１）**

イメージを広げ、自分の考えを決めるために活動を行った。自分だけではイメージをもつことが難しいと思われたので、班ごと（３人ずつ）で話し合い（わいわい会議）をさせた。児童はお助け①の方法でテーマにかかわることを５分間話し合った。ここでは、シラバスカードは配付せず、説明のみで話し合いの方法を伝えた。友達のイメージから自分の経験を重ねイメージを広げる児童も見られた。全体的に自由な雰囲気で話し合いができた。

**考察** 自分だけでは考えをもつのが難しい児童でも、慣れた班の中で話すことはイメージを広げることに効果的であると考える。

児童の発言・つぶやき　　教師の支援

**展開**　　**終末**

4 自分の伝えたい考えをもつ　　5 自分の考えを裏付ける事柄を探す　　6 学習のまとめと次時の予告をする

お助けマップを作る

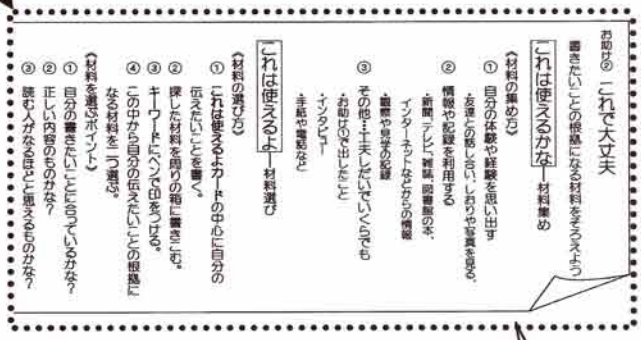
これは使えるよカードに書く

学習課題について：探すのが大変だったけど自分の考えをもてました

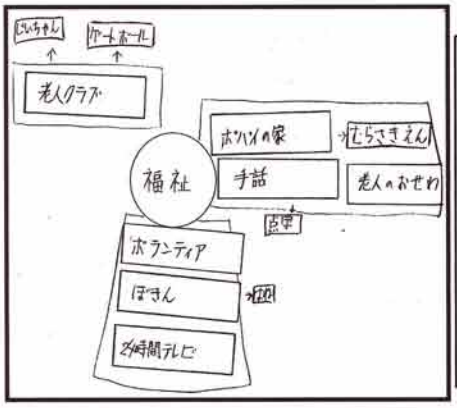
お助け①・②について：わいわい会議でたくさん出てびっくりしました

［4 自分の伝えたい考えをもつ］

［5 自分の考えを裏付ける事柄を探す］

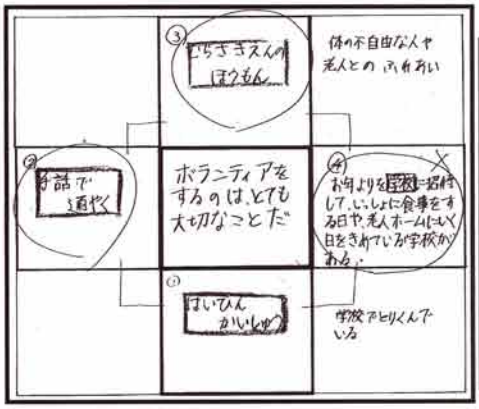



（構想・構成表①）




自分の考えがうまくまとまらない人は、「私の考えは、～という考えです。」の形にしてみましょう

（構想・構成表②）




本で調べてから自分の考えをしっかり決める方法もあります「これは」というのを探しましょう

(2)　児童は班で話し合ってイメージを広げたことを整理した。更に自分のイメージを付け加え、お助けマップを作成した。お助けマップの中から自分の考えになるものを探し、何を伝えたいかをまとめた。考えを体験したことから選んだ児童はすぐ考えを決められたが、思うように決められない児童には本などで調べてから決めさせた。

**考察**　全員が自分の考えをもつことができたのは、児童の実態に合わせて頁を戻るなど作文シラバスカードを活用できたためであると考える。

(3)　児童は自分の考えを裏付ける事柄を収集し、構想・構成表②の太枠の中に書き込んだ。隣り合う事柄から考えられることを残りの欄に書き込み、文章を膨らませる準備とした。選んだ四つの事柄の中から本当に必要だと思われる事柄を二つ選びキーワードを決めた。児童は初めて体験する構想・構成表②(お助け②)だったが、事柄を整理したり、キーワードを決めたりする活動に積極的に取り組むことができた。

**考察**　これまで手順を踏んで選材に時間をかける経験が少なかったので必要な事柄を選んだり、キーワードを見付けたりすることで論理的な文章を書くために必要なことを理解できたと考える。

**児童の感想**

☆今までは、こんなに作文をくわしくやらなかったので大変だったけど、作文がくわしく書けそうな気がしてきました

☆キーワードを見つけたおもしろかった

## ５　実践結果の分析と考察

### (1)　見付ける力の育成状況

【表６】は見付ける力の育成状況を【表５】を用いて判断し、結果をまとめたものである。プラスと判断できる児童は10人である。このうち３観点ともプラスと判断した児童が３人、２観点が５人、１観点が２人である。これは、課題テストの題意に合った自分の考えをもつことができたためである。また、自分の考えを裏付ける事柄やキーワードを選択、決定することもできたためである。このことから、話し合いで広げたイメージをまとめる構想・構成表①や裏付ける事柄やキーワードを決める構想・構成表②を活用して、児童が手順に沿って学習したことが効果を上げたと考える。

【表６】見付ける力の育成状況

N＝12（単位：人）

| 判断項目 | 自分の考えを明確にする | | |
|---|---|---|---|
| 判断の観点／児童 | ①自分の考えを決める | ②裏付ける事柄を選ぶ | ③キーワードを決める |
| A | ＋ | ○ | ＋ |
| B | ＋ | ＋ | ＋ |
| C | ＋ | ＋ | ＋ |
| D | ● | ＋ | ＋ |
| E | ＋ | ○ | ○ |
| F | ○ | ○ | ○ |
| G | ● | ● | ● |
| H | ＋ | ＋ | ＋ |
| I | ● | ＋ | ＋ |
| J | ＋ | ＋ | ○ |
| K | ○ | ＋ | ＋ |
| L | ○ | ＋ | ○ |

「注」
1　事前は９月２日、事後は９月 25 日に実施した
2　判断の観点に沿って、事前と事後を比較し、＋はプラス変容、－はマイナス変容、○は事前事後とも達成、●は事前事後とも未達成を示す
3　以下、【表８】も同様である

①で事前事後とも未達成と判断した３人の児童のうちD児とＩ児は、課題の「紹介したいよいところ」として挙げた種目のよさと自分の考えが一致しなかったことが原因である。また、G児は自分の伝えたい考えを明確にもてず、事柄の説明が中心となり、考えと事柄を区別できなかったことが原因である。これは自分の考えをもつための構想・構成表をG児が十分理解できていなかったためであると考える。今後は課題に沿って自分の考えをもてるように作文シラバスカードを個に応じるように改善し、指導を継続していかなければならない。

授業実践の結果、見付ける力の三つの判断の観点に沿った作文シラバスカードの児童の記述例が、【表７】である。自分の考えをもつためにA児のように経験から考えを決め、裏付ける事柄やキーワードを選んだ児童と、C児のようにイメージしたことを本から見付け、自分の考えを決めた児童に分けることができる。作文シラバスカードでは前者の方法を示したが、後者の児童は作文シラバスカードで振り返りながら活動し、状況に応じて活用することができた。これは吹き出しで個に応じた配慮をしたり、児童の活動の目安になったりした点が成果につながったと考える。

【表７】見付ける力における作文シラバスカードの児童の記述例

| | ①自分の考えを決める | ②自分の考えを裏付ける事柄を選ぶ | ③キーワードを決める |
|---|---|---|---|
| A児 | ・私の考えは老人ホームで働いている人は大変だという考えです | ・毎日、おふろに入れてあげる<br>・休みの日も話をしに行く | ・毎日<br>・休みの日も話しに行く |
| C児 | ・私の考えはちょう導犬は耳の聞こえない人の生活を支えているすばらしい犬だという考えです | ・電話がなったときは正しい場所まで連れて行く<br>・朝は時間どおりに飼い主を起こす | ・正しい場所<br>・時間どおり |

これらのことから、見付ける力は育成されたと考える。

### (2)　まとめる力の育成状況

次頁【表８】はまとめる力の育成状況を【表５】を用いて判断し、結果をまとめたものである。マイナスはあるものの、判断項目全体では全員がプラスに転じている。これは、児童が論理的な構成の文章の仕組みを理解したことが要因である。４段落構成の文章を論理的に書くための段落の働きや段落相互の関係、分かりやすい文章に必要なことを理解したためである。

このことから、自分の考えを裏付ける事柄やキーワード、文章に書く順番を示す内容を盛り込んだ構想・構成表③や段落の働きを理解させる作文シラバスカードを活用したことが効果を上げたと考える。また、構想・構成表③で確かめながら記述できたことや分かりやすい文章を書くために文の基本的な仕組みや語彙を増やす作文シラバスカードを取り入れたことも児童の学習に役立ったと思われる。

A児のマイナスは文と文の関係を整理して書く配慮が不足していたためと考える。また、L児へは文と文のつなぎ方の指導が不足していたためと考える。事前も事後も未達成と判断した観点が多いG

児は、論理的な構成の文章を書くために必要な内容を理解していなかったと考える。これは、作文シラバスカードに示した内容がＧ児に適さなかったためと思われる。Ｄ児とＩ児については段落の働きや関係が十分理解できていなかったと考える。これは、構想・構成表③に書き込むときに論理的な段落構成を理解していなかったためと思われる。また、⑦は未達成者がもっとも多かったが、これは文の種類に応じた言葉や文を書く配慮が不足していたためと考える。

これらのことから、作文シラバスカードを児童の実態に応じ、段落構成や働きをより理解しやすい内容にすることと、文と文のかかわりや言葉について着目した内容に改善し、指導をすることが課題として挙げられる。

これらのことから、まとめる力はおおむね育成されたと考える。

【表８】まとめる力の育成状況　　Ｎ＝12（単位：人）

| 判断項目 | 自分の考えが伝わるように、裏付けとなる事柄を適切に配置する | | | 論理的な文章になるように段落を構成する | | | 種類や形態にあった文章を書く | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 判断の観点／児童 | ①キーワードを用いる | ②「なぜ～」「まとめ～」が対応 | ③事象と意見感想の区別 | ④四段落構成の文章 | ⑤段落の働きに対応 | ⑥一段落一事項 | ⑦適切な語や文を用いる | ⑧主語と述語の対応 | ⑨個々の文の長さ |
| A | ＋ | ＋ | － | ＋ | ＋ | ○ | ＋ | ＋ | － |
| B | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ |
| C | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ● | ○ | ＋ |
| D | ＋ | ● | ＋ | ＋ | ● | ＋ | ○ | ○ | ＋ |
| E | ○ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ○ | ○ | ● |
| F | ○ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ○ | ● | ＋ | ＋ |
| G | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ＋ | ＋ |
| H | ＋ | ＋ | ● | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ |
| I | ＋ | ● | ● | ● | ＋ | ○ | ＋ | ○ | ＋ |
| J | ○ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ○ | ＋ | ＋ | ＋ |
| K | ＋ | ＋ | ＋ | ● | ＋ | ○ | ● | ＋ | ＋ |
| L | ○ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | － | ＋ | ＋ |

「注」【表６】に同じ

(3)　見直す力の育成状況

【表９】は見直す力の育成状況を【表５】を用いて判断し、結果をまとめたものである。プラスと判断した児童は６人である。そのうち５人が①の観点で推敲し、１人が⑤の観点で推敲をしている。これは、①については児童の多くが推敲の視点を漢字や字の間違いを直すに向けていることを示している。作文シラバスカードを活用して推敲の視点を学習したことで、普段読み直しをしない児童も推敲の重要性を理解できたことが要因であると考える。⑤については事前に③の内容まで着目した児童が事後に達成できたことから、読み手を意識するように作文シラバスカードを活用したことで文章表現の工夫に取り組むことができたためと考える。

【表９】見直す力の育成状況　　Ｎ＝12（単位：人）

| 判断項目 | 判断の観点 | 児童／判定 | A | B | C | D | E | F | G | H | I | J | K | L |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 読み手に分かりやすい文章に仕上げる | ①漢字や字の間違い | ＋ | ↑ | ○ | ↑ | ↑ | ↑ | ↓ | ○ | ○ | ↑ | ○ | ／ | |
| | | － | | | | | | | | | | | | ○ |
| | ②原稿用紙の正しい使い方 | ＋ | | | ／ | ／ | ／ | ／ | | | ／ | ／ | | |
| | | － | ／ | ○ | ／ | | | | ○ | ／ | ／ | | ○ | ／ |
| | ③読み手を意識した文章 | ＋ | | | ／ | | | | | ○ | | ○ | | ／ |
| | | － | ○ | ／ | ／ | | ／ | ／ | ○ | | ／ | | ／ | |
| | ④目的にふさわしい語や語句 | ＋ | | | | | | | | | | | | ／ |
| | | － | ／ | ／ | ○ | ／ | ／ | ○ | ／ | ↓ | ／ | | ○ | |
| | ⑤更に文章の表現の工夫 | ＋ | | | | | | | | | | | | ↑ |
| | | － | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

「注」１　判断の観点に着目した場合を＋、着目しない場合を－とし、○は事前事後にとも変容のないことを、矢印は変容を示す
２　太い斜線は事後に推敲の必要なしと判断したものであり、上段は事前に達成、下段は事前に未達成と判断したことを示す
３　細い斜線は事前、事後とも推敲の必要なしと判断したことを示す
４　実施日は【表６】と同日である

①でＦ児がマイナスになっているのは漢字の間違いに気付かなかったためである。また、④でＨ児がマイナスになっているのは話し言葉に気付かなかったためである。このことから、推敲をするときは、複数回読み直しをしたり、読み合いをしたりすることが必要であると考える。②③④でプラスになった児童はいないが、事後に推敲の必要がないと判断した児童が増えたことは、多くの児童が、論理的な文章を書く視点のほかに推敲の視点に沿ってまで記述をしたと考える。これは、記述の場面で原稿用紙の使い方などについて注意喚起したために推敲活動ができ上がっていたと考えられる。⑤に未達成者が多いのは児童にとって難しい内容であったため、表現の工夫まで着目できなかったことが原因である。今後、推敲では具体的に文章を確かめながら児童に文の工夫ができるところを気付かせたり、よい文章に触れさせたりしながら表現の工夫に目を向けさせる活動が必要であると考える。

これらのことから見直す力は、更に表現の工夫をする指導が必要ではあるが、児童の力は高まって

いると考える。

以上のことから、構成要素の三つの力はおおむね育成されていると考える。

6　小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その妥当性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1)　成果

ア　学習の見通しが分かる作文シラバスカードを用いたことで、次の活動を児童自身が見通すことができ、主体的な活動が見られるようになった。

イ　筋道を立てて段落構成できる作文シラバスカードを用いたことで、自分の考えを伝えるための論理的な構成の文章を書くことができた。

ウ　確かめながら学習を進める作文シラバスカードを用いたことで、既習の内容を確認することができ、思考の継続を図ることができた。

エ　目的や相手を意識させる支援をしたことで、目的や意図に応じた文章を書こうとする力が育った。

(2)　課題

ア　作文シラバスカードを児童一人一人の力に応じた内容に改善をする。

イ　見直す力をより高めるために、他の児童の文章を推敲したり、前に書いた自分の文章を振り返ったりするような活動を工夫して取り入れる。

以上のことから、児童自身が学習を主体的に進めるための「学習の羅針盤」としての働きをもつ作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れた手だての試案は妥当であり、目的や意図に応じた文章を書く力を育てることに効果があったと考える。

# Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

この研究は、作文シラバスカードを用いた学習活動を取り入れることにより、小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導の在り方について明らかにし、小学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。そのために、目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導に関する基本構想を立案し、手だての試案に基づいた授業実践をとおして、手だての試案の妥当性を検討してきた。その結果、仮説の有効性を確かめることができ、小学校国語科において目的や意図に応じた文章を書く力を育てる学習指導についてまとめることができた。

2　今後の課題

本研究を今後より生かすための課題として次のようなことが考えられる。

(1)　作文シラバスカードの内容を意見文以外の文章や学年、児童の実態に応じて改善する。

(2)　児童が作文シラバスカードを必要に応じて必要なところを活用できるように、多様な活用の仕方を明らかにする。

【参考文献】

市毛勝雄著　「作文の授業改革論」 明治図書　1997 年

渋谷　隆著　「作文教材の新しい教え方」　明治図書　2001 年